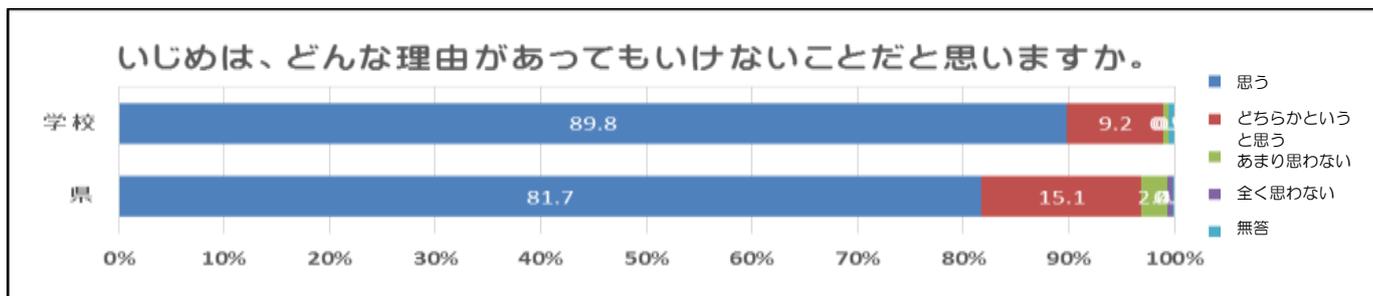




## 11月はいじめゼロ月間です!

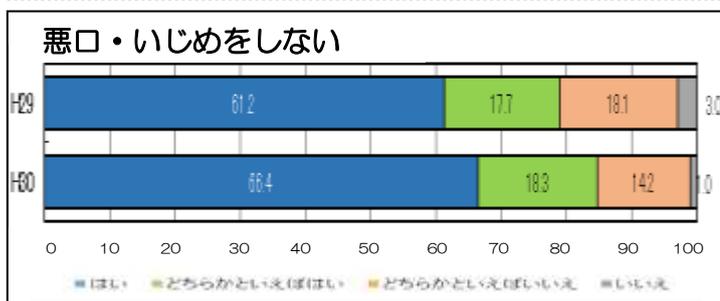
毎年11月は、「いじめゼロ強調月間」です。平成21年に開催された「第1回いじめゼロ子どもサミット」において、県内から集まった児童生徒、教職員、保護者によって提唱されました。

今年も、8月22日に「いじめゼロ子どもサミット2018」が開催され、約280名の小・中学生有志が集いました。テーマ「『みんな』で、感じ、考え、つながろう」のもと、一人で抱え込むことなく、友達や先生、家族や地域の人など「みんな」で「つながって」いじめ問題について考えていくことなどを確認しました。



上のグラフは、昨年11月に実施された県学習状況調査（1・2年生対象）の生徒質問紙「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の本校の結果を、県全体と比べたものです。

中1（現2年）、中2（現3年）ともに、「思う」と答えた人の割合が県全体に比べて多く、いじめは決して許されないことという詫中生の意識の高さがうかがえます。



左のグラフは、1学期末に校内で行った生徒アンケート（全学年）のうち、「悪口、いじめをしない」の結果を昨年と比べたものです。

「はい」「どちらかといえばはい」を合わせた割合が増えており、昨年度よりよい傾向ですが、「どちらかといえばいいえ」の割合も少なくなき、悪口やいじめがゼロではないことがうかがえます。

みなさんも、いじめによる悲しい報道を耳にすることがあると思いますが、**いじめは決してゆるされない**ことであり、**生命に関わる重大な人権侵害**です。他校のことだから関係ないと思わず、私たちの身近な問題として受け止め、「**トラブルが起きたとしても、深刻ないじめにならないために何ができるか**」を「みんな」で考えていくことが大切です。

また、いじめは、加害者と被害者だけの問題だけでなく、周りにいる人たち（傍観者）の問題でもあります。**見て見ぬふりをする**ことも、**いじめを助長**しているのです。

詫間中学校から、いじめの被害者や加害者を出さないために、見て見ぬふりをせず、「みんな」でいじめゼロに向けて取り組みましょう。

### ◆あなたは大丈夫ですか？（いじめになる行為の例）

- 冷やかしゃからかい、悪口やおどし文句、いやなことを言う。
- 軽くぶつかったり、遊ぶふりをしてたたいたり、けったりする。
- 仲間はずれ、集団による無視をする。
- スマホ等で、いやなこと（書込み・写真等）をする。

